

社会（中学校）

○ 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり

中学校社会科では、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。

【『中学校学習指導要領解説（社会編）「改訂の趣旨」』を踏まえた課題】

- ・資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力を育成すること
- ・課題を追究したり解決したりする活動を充実させること

「個を活かす協働的な学び」の実現 「個に応じたきめ細かな指導」の充実

「授業づくりの三訓」を生かして（例）

しかけて待つ	語らせつないで	認め励ます
<p>■生徒が考えたくなる課題設定のしかけ</p> <p>生徒が考えたい課題と教師が考えさせたい課題は必ずしも一致しない。生徒の既習事項や思考の流れを踏まえて課題を設定する。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「当たり前」が揺さぶられる課題を設定する。 <p>(例)「雨が少ないカンザス州が、なぜアメリカ国内で小麦の生産が多いのか」</p>	<p>■考えの根拠となる知識や情報の共有</p> <p>社会科は知識量の格差が授業への参加に影響しやすい。全員が対等に語り合えるためには、根拠となる知識や情報が共有されている「場づくり」が必要である。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの単元で扱った資料や学んだ内容を1枚で振り返ることができるシートを全員に配布する。 	<p>■生徒が学習状況の改善を図る機会をつくる</p> <p>「評定に用いる評価」を行う前に、「学習改善につながる評価」によって見取った生徒のよい点や進歩の状況を生徒と共有し、活動の充実を図る機会をつくる。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入で、ある生徒が記述した前時の振り返りの「よさ」を紹介し、全体で共有する。

ICTの活用について

- ・「重ねる」工夫（詳しくは、「せとうち先生スキルアップチャンネル」参照）
社会科において、実物や本物に触れることは重要です。一方で、デジタルデータでは、実物ではできない加工を施すことができます。実物の用意が難しい場合も、そういったICTのよさを生かして活用することで、生徒の「おどろき」や「実感」のある授業につなげたいものです。

【「重ねる」工夫の例】



- ・多様な意見に出合わせる工夫
社会科において、異なる他者の意見に触れ、課題について多面的・多角的に考察することは重要です。例えば、これまでは意見を発表する機会や生徒が限られていた場面でも、端末の学習支援ソフトを利用することで、生徒一人一人の意見を即時に共有でき、より多様な他者の意見に触れる機会につなげることができます。

・ICTの活用における留意点

ICTの向き・不向きを踏まえて、上手に使い分けていくことです。例えば、ICTに頼る部分と、あえて生徒に作業させる部分を使い分けることも考えられます。苦労や困難の経験も学びの実感には大事な要素になります。効率的にICTを使って容易に結果が出ればいいというものではなく、ここは、「あえて苦労させたい」「時間をかけさせたい」「困難を経験させたい」場面では、生徒に自力で挑ませることも重要です。